

PREX NOW

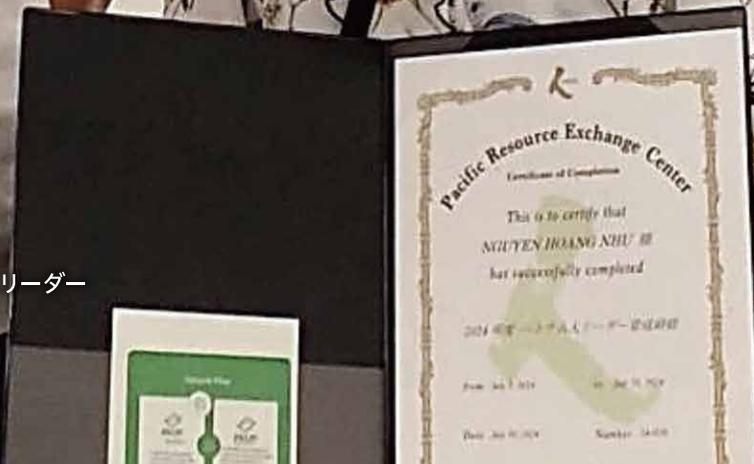


世界と関西をつなぐ VOL.278

特集：外国人社員が活躍する企業

職場に
国境なし。
成長に
限界なし。

藤本産業株式会社 藤本社長と「PREXベトナム人リーダー育成研修」の修了証を手にするニュウさん。
ニュウさんは、この日、10日間の研修受講を終え、アクションプランを発表した。(2024年7月)



よりよく働くには
金銭以外の
動機付けが必要。



PREXのベトナム人リーダー育成研修に参加して

藤本産業株式会社のニューさんは、マーケティングを担当し今年3年目です。ベトナム語の翻訳やウェブサイトのリニューアルで活躍されています。藤本社長の推薦を受けて、2024年7月に「PREXベトナム人リーダー育成研修」に参加されました。この研修は、日本企業で働くベトナム人社員を対象に、企業の中核を担うリーダーとなれるような人材を育成することを目的に毎年、実施しています。研修は、①経営理念 ②カイゼン ③組織管理 ④人材育成をテーマに構成しています。講義と演習に加え、テーマに沿った企業訪問を通して理解を深めてもらうことができます。さらに研修で学んだ内容(情報)を自ら使える知識にするために、各自が会社で実行するアクションプランを作成してもらい、研修最終日に所属先の上司も参加する、アクションプランの発表会を行っています。

ニューさんは、研修で訪問した企業の中で、株式会社ベルでの「経営理念に沿った行動(社員幸福度 ≧ 顧客満足度)」や、株式会社クリエイションでの金銭以外の心理的動機づけ(達成感、成長感、部下への期待等)についての講義や、三元ラセン管工業株式会社での「コア技術の伝承と人材育成」について特に学んだようでした。資格保持者一覧を職場に明示して各自がやる気を持ち、自ら手を挙げて資格をとる仕組みに関心を持っていました。アクションプランは、ブランディング活動と企業理念の浸透をテーマに発表されました。(PREX 荒木)

【研修最終日の藤本産業株式会社 藤本社長からのコメント】

研修成果に驚きました。ニューさんは、研修に参加する際に「金銭以外の動機付け」について学びたいと話してくれましたが、今日の発表では、ニューさんが「金銭的なもの以外の動機付け」を体現してくれていました。

日頃から、ニューさんは、私が不安になっている時に、すごく良いパスを出してくれます。励まされることが多く、とても感謝しています。

今回作ってくれたアクションプランは、会社の経営にも有用です。「言うは易く、行うが難し」ですが、ニューさんがアシストしてくれることを期待しています。日ごろから皆の模範になってくれていて、学んだことを会社の業務に活かしてくれと思います。会社と共に成長してくれたら嬉しいです。

(藤本産業株式会社 代表取締役社長 藤本 翔平 氏)



藤本産業株式会社
代表取締役社長
藤本 翔平 氏

藤本社長の考える魅力的な職場についてお聞きしました。

当社は、ねじの卸をメインにしている会社です。2020年の年末に家業を継いで、4年目を迎えるところです。私たちの会社は、東大阪にあります。その他に、国内の拠点が4箇所と海外拠点(中国とベトナム)があります。グループ全体で170名ほどの規模です。私たちの目指すべきゴールのひとつとして、魅力的な職場—ダイバーシティ&エンパワーメントを掲げています。外国籍の社員が8カ国、約20名が働いてくれています。中には10年以上働いてくれている社員もいます。外国人がたくさんいることによって、さまざまなメリットがあり、表層だけのダイバーシティではなく本質的なダイバーシティを実現しようと、いろいろな取り組みを頑張っています。



多文化な職場だからこそ 健全なぶつかり合いから いいアイデアが生まれる。

外国人材の採用はどのように取り組まれていますか？

当社には、もともと、貿易部がありましたので外国人の社員が数名いました。一般社団法人Transcend-Learningの吉田氏とご縁があり、吉田氏からアドバイス頂いたことをフォローした結果、今の当社があります。改めてフォローして良かったと思っています。さまざまな施策がありました。『探究思考ブック』という本に紹介いただいたのは特に良かったです。社員は、自分の会社の記事が紀伊国屋書店に並ぶことに誇りを感じました。会社紹介の動画も作っていただきました。私たちは、こうした動画を作ったことがなかったのですが、完成後は、機会を見つけては、この動画を見てもらっています。結構ポジティブなフィードバックが返ってきます。採用のための合同説明会の際にも、この動画を流すと外国人の留学生にも当社で働くイメージが湧くのだと思います。動画を見た瞬間に、目の色が変わります。「この会社は働きやすそう」と思っていただけ、すごく良いツールになりました。今後のことはどうなるかわからない部分もありますが、いろんな施策を通して、さらに良い会社を作っていけたら良いなと思っています。

8カ国の方を採用されていますが、同じ国の方を採用する会社も多いと思います。

なぜいろいろな国の方を採用されているのか、それによるメリットや苦労されている点も教えてください。

特に考えて分けている訳ではなく、ご縁があった人に入ってもらっていると、いつのまにか8カ国になっていたというのが正直なところ。メリットは、多様な意見が出てくることです。特に日本人社会では、そんなこと言わないであろう意見もバンバン出てきます。そこは良い部分だと思っています。一方で、デメリットも多少はあります。国によって、文化や考え方もかなり違います。外国人という一括りだけではなく、国ごとの特性が色濃く出ます。また数が増えるほど、健全なぶつかり合いも増えます。その辺りは少し気を遣うところはあります。

「健全な良い意味でのぶつかり合い」を会社として大事にして、チームプレーに転換する時に何か工夫されていることがあれば教えてください。

外国人の方にとっては、空気を読むであるとか、なんとなく感じるというのは、すごく難しいと思うので、納得するまで話し合う、きちんと、うやむやにせず、はっきりさせるということはずごく大切にしています。当社で扱っているねじは、一本でも欠けると、あたりまえに動いていたものが動かなくなります。人材も同じです。人や国の不平等のない世界、これが藤本産業がめざす当たり前です。ともに発展する社会を作りたいです。

藤本社長にはPREXオンラインカフェ「e-toco(えーとこ)」#22にゲストとして参加いただきました。(10月2日の配信) →→→



PREXベトナム人リーダー育成研修の詳細はこちら →→→





いまでは
ベトナム社員が
日本人社員を引っ張ってくれています。

株式会社エースパックでは、23名のベトナム人技能実習生を採用。 今では周りの日本人の牽引役に！

廣川ホールディングス株式会社 代表取締役社長 廣川です。

当社は、食品・化粧品を中心とした包装資材と、最近ではテーマパーク、映画館、スポーツ&音楽イベントなどのエンターテイメント空間で用いられる販促資材の企画・生産、製品販売しているグループです。カスタマイズした製品の開発設計製造販売を中心に、グループ年商は570億円。創業100年を超え、67年連続黒字を継続しています。

グループ内で容器生産を担っている株式会社エースパックでは、23名のベトナム人技能実習生を採用しています。食品の一次包装品の検査では安心安全が最優先で、検査・包装に必要な忍耐力、正確性、規律性がベトナム人女性の気質に合うと考えます。夜勤でもいとわずに積極的にシフトに入ってくれます。福島県矢吹工場に18名、富田林工場にも5名いますが、今ではベトナム人が周りの日本人の牽引役になっています。

文化の違いがあり、当初は朝礼や歓迎会には馴染みがなかったようですが、今では参加するのを楽しみにされています。言葉の壁があるため、日本語が堪能で通訳対応ができるベトナム人2名を、正社員として採用しています。この2名は事務担当で工場全体の総務的な対応をしています。業務遂行能力も高い人材です。

また、当社では技能実習生に対して、福利厚生面の差をつけていません。
(廣川ホールディングス株式会社 代表取締役社長 廣川 信也 氏)

【外国人社員への質問】

この会社で働く感想をお聞かせください。

・ニーさん(ベトナム出身)

日本には10年いて、ここが4社目です。ここが一番いい理由は定時で帰れること、自分に合う仕事であることです。人間関係が良く、コミュニケーションがよく取れることも良いところです。

・レイさん(ベトナム出身)

みんなとても親切です。きれいで働きやすく、自分にあっている仕事です。



廣川ホールディングス株式会社
代表取締役社長 廣川 信也 氏



ロングインタビューはこちら





売り手よし・買い手よし・
世間よし・次世代よしの
「四方よし」を目指しています。

環境問題に国境なし。ボリビア、ブラジル、中国、ベトナム、台湾、インド出身の方が活躍中。

株式会社日吉 代表取締役社長の鈴木です。

当社は、時代の移り変わりとともに、地域環境の改善・保全、次世代の環境啓発、環境技術の海外展開、そして持続可能な社会への貢献に取り組んできました。

滋賀県発祥の近江商人の理念「三方よし(売り手よし・買い手よし・世間よし)」を受け継ぎ、さらに次世代の人材育成に注力した「次世代よし」を加えた「四方よし」の実践を目指しています。

事業をスタートしたころは、3K(きつい・きたない・危険)の仕事には、なかなか人が集まりませんでした。しかし、当時採用した外国人社員が非常に優秀であったことから、経営者の外国人採用に対する意欲が高まったと考えています。

これまでに南アメリカのボリビアやブラジル、中国、ベトナム、台湾、インドなどから人材を採用し、30年以上にわたり、51カ国1,110名の環境エキスパートの育成に注力してきました。現在も6名の外国人社員が廃棄物収集運搬、環境分析測定、国際業務に携わっています。

しかし、日本人社員が必ずしも英語を話せるわけではなく、また日本人社員と外国人社員の間では文化や常識が異なるため、互いの理解に差が生じることがあります。そのため、日本語研修を行うなど、外国人社員の受け入れ環境をより良くするための取り組みを行っています。特に、双方のコミュニケーションが円滑に進むよう、写真付きのマニュアルを整備し、理解しやすい工夫を凝らしています。

(株式会社日吉 代表取締役社長 鈴木 正氏)



株式会社日吉
代表取締役社長 鈴木 正氏

【外国人社員への質問】

この会社で働く感想をお聞かせください。

・汪さん(中国出身)
忙しいですが、やりがいがあります。自分の成長も感じています。

・クレヴィータさん(インド出身)
日吉は社員同士が家族のような印象を持っています。
皆さんからいろいろとサポートを受けています。

ロング
インタビューは
こちら →→→



コルドバの魅力は
何と言っても「人」です。



アルゼンチン滞在時の
黒木職員と友人の皆さん

コルドバ人は関西人のイメージに似ている？

国際交流部の黒木です（写真、前列左から3人目）。2024年7月からPREXにて働き始めました。

私は過去に中南米諸国で合計12年弱生活していました。今回、その中で滞在歴が最も長かったアルゼンチンについて紹介します。

アルゼンチンの公用語はスペイン語ですが、少し話すだけでもアルゼンチン出身であることがすぐに分かってしまうほど他のスペイン語圏の国々とはイントネーションや発音が異なります。他国に比べてイタリア移民が多く、イタリア語の影響が色濃く残っているため、と言われていました。

そのアルゼンチンの中であって、私が住んでいたコルドバ州はさらに訛りの強い地域で、一般的なアルゼンチンのアクセントと言われるブエノスアイレスの話し方とも違ってきます。コルドバは南米でも有数の歴史ある大学を有する古都で、コルドバと言えばリベラルな政治家とコメディアンを多く輩出する州として有名です。コルドバ人は冗談好き、しかもブラックユーモアが大好きで「コルドバ人イコール面白い人」というステレオタイプがあります。国の第2の都市で、訛りが強くて面白いことを言う人々。なんとなく日本における大阪人もしくは関西人のイメージと似ているような気がします。

天然資源が豊富で、識字率・教育レベルも高く、かつては中南米で最も豊かな国がアルゼンチンでしたが、有能な政治的指導者に恵まれず、経済の低迷が続き2001年にはデフォルトを起こしてしまいました。デフォルト以降、国民は支持政党を基に深く分断されており、自分が支持しない政党が政権に就くと激しいストライキや道路封鎖を起こし、公共サービスが機能停止してしまうことはしょっちゅう。長年続く経済の低迷に苦しむ国民は政治家の悪口を言って鬱憤を晴らすしかありません。

そんなアルゼンチンで我々外国人が軽々に政治に関する話をするのはお勧めできません。例えば、ミュージカルの題材にもなり、同国のお札にも描かれているエバ・ペロンなどは同国を代表する有名人ではありますが、実は政治的に好き嫌いがはっきり分かれる人なので話題にするのは危険です。国民全員に愛されるメッシの名前を出しておくのが無難です。

相手がコルドバ出身なら、コルドバ出身のカリスマ的歌手であるラ・モナ・ヒメネスを話題に出してみてください。

すぐに仲良くなれます。（PREX 黒木）



アルゼンチン北部オルノカルの十四色の丘。



サラムノ! つながりは、
年月や距離を越えて。

エチオピアの研修員と
再会した佐賀職員

研修員と再会 in Ethiopia!

今年1月、休暇をとって、過去に「ICA海外協力隊として活動していた国である「エチオピア」を訪問しました。協力隊時代に住んでいた町をメインに滞在し、久しぶりに現地の友達と再会することができて、とても幸せな時間となりました。帰国して4年がたっていましたが多くの人覚えてくれていて、第2の故郷へ帰ってきたような気持ちになりました。

4年ぶりのエチオピアは物価が上がっていたり、日本と同じく温暖化で暑くなっていたりと多々変化もありましたが、コーヒーの美味しさや人の温かさは変わることなく、幸せな時間を過ごすことができました。

エチオピア訪問のもう一つの目的は、過去に担当した「2022年度」ICA研修「持続可能な観光地域づくりのための人材育成」で来日していたエチオピア人研修員タイィさんに会うことでした。彼は首都アディスアベバに住んでいるため、帰国前に会うことができました。研修で作成したアクションプランの進捗状況や今のエチオピアの観光についてなど、ゆっくりと話すことができ、とても良い機会となりました。

2年前の研修にはなりますが、一緒に研修に参加した他の国(ミクロネシア・エジプト等)の研修員とは今でも連絡を取っているとっていました。何年たっても連絡を取り合い、情報共有ができる仲間ができることは、研修の良いところの一つです。

今回の訪問を通して、これからも研修員同士のネットワークが続くような研修を作っていきたいと感じました。(PREX 佐賀)



エチオピアの村の家



エチオピアの主食「インジェラ」

野茂英雄選手がメジャーリーグデビューしてから29年、今では大谷翔平選手の大活躍に日本中がワクワクしています。さまざまな国の選手たちが文化や価値観の違いを乗り越え、チカラを合わせて勝利を目指す姿が、今号で取り上げさせていただいた企業に重なります。外国人社員が活躍する職場はどういったことを大切にしているか、その本質に少しでも迫っていたら嬉しいです。今号をお読みになられた皆様のご意見ご感想もぜひお聞かせください。お待ちしております。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

アンティグア・バーブーダの参加で、 研修参加国・地域の累計が158に。

8月～9月に実施された「JICA「持続可能な観光地域づくりのための人材育成」にカリブ海の島国アンティグア・バーブーダから研修員の参加があり、歴代の研修参加国・地域数の合計が158になりました。
これからもPREXは、PREXグローバルネットワークの輪の拡大と関係強化に取り組みます。

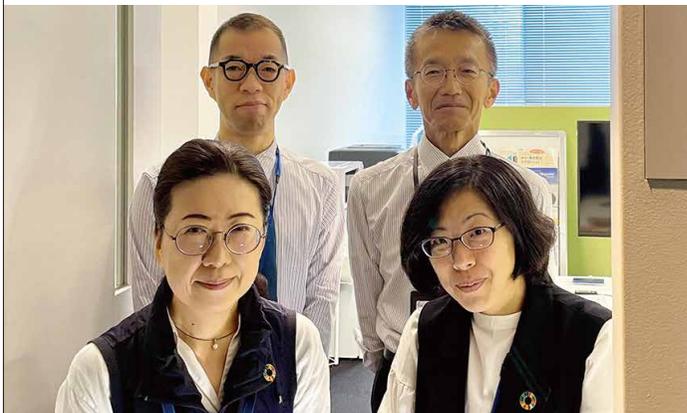


アンティグア・バーブーダ

※158は、1990年からの研修参加国・地域の累計数。その間に消滅した国やその後再編されたり名前が変わったりした国も含まれています。

JICAコラボデスクに新メンバー！

PREXは、JICA関西からコラボデスク運営支援業務を受託し、JICA中小企業・SDGs支援事業の紹介・応募に際してのコンサルティングなどを行っています。
この度、新たに黒木職員(写真左上)がJICA中小企業海外展開支援アドバイザーとして加わることとなりました。グランフロント大阪北館7階K709にて、より一層強化された支援体制でお待ちしておりますので、どうぞお気軽にご連絡ください。



前列左から酒井、前田。後列左から黒木、中山。

6月～10月に実施した 主な研修

●キューバ国中小零細企業振興アドバイザー業務2024年度本邦技術研修
キューバの行政官(実務レベル)6名+経営者6名が参加。

●JICA中小企業振興政策(A)
インドネシア、ラオス、マーシャル、モンゴル、ネパール、パキスタン、北マケドニア、ベトナムの中小企業振興に携わる中央省庁等の職員 計8名が参加。

●ベトナム人リーダー育成研修
日本企業に勤務するベトナム人社員 計6名が参加。

●JICA持続可能な観光地域づくりのための人材育成
モンゴル、ミクロネシア、パプアニューギニア、サモア、アンティグア・バーブーダ、ヨルダン、アルバニア、セントルシア、モンテネグロ、タジキスタン、ジョージアの観光振興に携わる関連省庁等の職員 計12名が参加。

ウェブサイト 研修レポート随時掲載中！

上記記載の研修以外にもウェブサイト随時研修レポートを掲載しています。
最新の研修レポート「立命館大学経済学研究科博士課程(前期)Master's Program in Economic Developmentにおける中小企業振興研修」は右記QRコードからご覧いただけます。 →→→



PREX NOW第278号(2024年12月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ウェブサイト:<https://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー